

林業事業体レポート File 06

牛木組

【上越市】



環境保全から林業を継続しつつ 「うしきのこ」ブランド化を目指す



原木シイタケは菌床シイタケに比べ、香り高く、肉厚で歯応えがある。ハウスの中でシイタケを収穫する、森林技術員1年目の萩原さん。

上越市の総合建設業「牛木組」が、林業認定事業体となったのは平成16年。昭和54年に妙高市の山林を購入したことをきっかけに近隣の山林を所有するようになり、現在120ヘクタールの所有林管理を中心に森林整備を行っている。もともとは先代社長長の山好きから始まった事業だが、平成16年には「優良林分コンクール」で林野庁長官賞を受賞するほどの技術力を誇る。林業の経営は厳しい面も多いが、同社は自然環境の保全を重要視。社有林の整備を通じて近隣の山林所有者の意識を高めたいと意欲的だ。

シイタケ栽培は森林事業の冬場の仕事確保のため、平成16年から同社の山林を利用して始めた。現場作業員13名のうち10名は建設業と兼務し、3名が森林技術員として冬場、原木栽培のシイタケ生産に携わる。平成20年からはハウス栽培も開始し、現在はハウス3棟で生産している。肉厚で香り高いシイタケは、社名をもじり「うしきのこ」と命名。さらなるブランド化を目指す。

④初代林業担当・牛木順作さん。順作さんを頭に林業班が結成された昭和50年代、名立区を中心に間伐・枝打ちなどの手入れをし、地域の模範となったという ⑤年に1回、近隣の小学生や園児を呼び、原木シイタケについての説明を行っている ⑥平成25年、モンゴルから視察団が来越し、原木シイタケ栽培施設を見学した ⑦実験的にモノレールを使った材の搬出作業。地形が急峻な現場では、フォワーダなどによる作業路開設が不可能だった



① 1回収穫した後に次の発生サイクルまで木を休ませる。ほど木をチェックする白鳥さん ②「うしきのこ」は、「うみてらす名立」や上越市のスーパー「イチコ」で販売。インターネットの取り寄せサイト「47CLUB」でも購入できる ③ 温かいハウスの中は、自社林で出た間伐材をボイラーで燃やし温度調節

緑の担い手

大自然の中で、プロ意識を持って働く人たちが



白鳥 巧さん

年齢:35歳 林業経験:6年

Shiratori Takumi

森林整備事業につなげたい

自分の作ったものを「おいしかった」と反応をいただけるのは、とてもうれしく、励みになります。今、市場はほとんどが菌床シイタケです。原木シイタケは、手間がかかりますが、昔ながらの作り方の原木シイタケを広めたいですね。また、原木シイタケ作りにはきちんと手入れをした山林が必要で、シイタケ作りをもとに森林整備事業にもつなげていきたいと思っています。



荻原 雅裕さん

年齢:19歳 林業経験:1年

Ogihara Masahiro

「うしきのこ」を知ってほしい

高田農業高校の林業コースを卒業しました。昔から体を動かすことが好きなので山での作業は楽しいです。シイタケ栽培は学校でもやっていました。でも、原木シイタケだからこそ、おいしい「うしきのこ」をもっとたくさんの人に知ってもらいたいですね。木を伐るなど、森林整備の仕事には、まだまだ慣れていません。危険も伴うので怪我をしないように気をつけます。



① ほど木が並ぶ美しい山林。整備された山林を所有していたからこそ、シイタケ作りに取り組めた。「管理すれば山はこんなにきれいになるという見本を見せて、山林所有者に働きかけたい」と白鳥さん ② 所有林では植栽も行っている。小さな木々の成長が楽しみだ ③ シイタケを一つずつ手で摘んでいく。路地栽培での収穫は、現在3割ほど ④ 左から森林技術員の荻原雅裕さん、指導者の高澤紘昭さん、森林技術員の白鳥巧さん、佐藤昇さん、パートの笠原スミエさん



【事業体Data】



牛木組

住所/上越市名立区名立大町1630番地1 電話/025-537-2316
 設立/昭和38年 資本金/3,000万円
 従業員数/87人(森林部門5人)
 勤務時間/8:00~17:00 主な勤務地/上越市
 主な従事業務内容/土木工事、建築工事、森林整備、特用林産物生産

【事業主コメント】

弊社は建設事業を主体とし、ことしで会社設立51年を迎えます。森林事業での利益は正直、厳しいですが、先代も林業で利益を得るといって考えではなく、森林を守るために始めたといえます。私も美しい山々は未来の世代に受け継いでいくべき財産だと考えます。自然とともに共存できる環境作りという面からも森林整備を続けていきます。



牛木組 代表取締役 牛木 藤正

